

# 妻ヶ丘中学校だより

令和7年9月22日(月) 校長 飯干 裕二

第2学期がスタートし、約3週間が過ぎました。長い夏休みではありましたが、何よりも、大切な本校の生徒が、大きな事故等もなく、無事に第2学期をスタートできたことが大きな喜びです。改めて、保護者の皆様及び地域の皆様に心より感謝申し上げます。

## 各部活動が頑張っています

大会結果につきましては、随時、シグフィー等でお知らせいたしましたが、今年の夏も各部活動が様々な大会で頑張っていました。特に男子バレーボール部は県大会で優勝し、九州大会では準優勝に輝き、晴れの舞台である全国大会に出場しました。また、男子ソフトテニス部も個人戦において県大会で優勝し、九州大会に出場しました。惜敗はしましたが、本当に頑張ってくれました。本校は昔から部活動が盛んな学校です。既に新チームでのスタートである地区秋季大会が始まっていますが、この伝統を受け継ぎ、来年の夏の本番では、更なる好成績を収められることを期待しています。

なお、8月30日(土)に行われたジュニアオリンピックU16県陸上競技大会で高本さんが、ジャベリックスローで優勝し、10月19日(日)に三重県で開催される全国大会に出場します。ここでの活躍も期待しています。

## 第2学期始業式

8月26日(火)から第2学期がスタートしました。今回の2学期始業式も、1学期終業式と同様に、熱中症対策としてリモートで実施いたしました。

さて、生徒代表のことばとして、各学年代表の3名の生徒、生徒会代表の1名の合計4名の生徒の皆さんと、2学期の抱負を述べてくれました。4名とも目標達成に向けた具体的な取組を発表してくれました。大変中身が濃い、素晴らしい発表でした。

そして、私からは、3つほど「校長の話」として、生徒の皆さんにお伝えました。

1つ目は、2学期も本校の教育ビジョンを基盤とした、「自立・感謝・貢献」を1セットとした取組を行って欲しいことです。

2つ目は、「自己肯定感を高めること」です。色々な自分が存在しても構いません。しかし、その全ての自分を受け入れ、決して自分を否定しないことです。生徒の皆さんには、沢山の方々から愛されているかけがえのない存在です。だからこそ自分を大切にして欲しいとお願いしました。

3つ目は、「SOSを出す」ということです。辛いこと苦しいことを絶対に自分一人では抱え込まずに他者に相談すること。周囲の人も苦しんでいる人がいたら、大人に知らせるということ。先行き不透明な時代だからこそ、人に依存し、助け合うことが必要です。

以上の内容の話しをお伝えし、最後に安心で安全な充実した学校生活を送ってくれることをお願いして「校長の話」とさせていただきました。

## 無事に修学旅行が終わりました

本年度は、通年より早い時期(9/10~9/12)での修学旅行となりました。ご報告させていただきます。

○9月10日(水) 1日目

【都城～宮崎・鹿児島空港～伊丹空港～大阪万博コース・奈良コース～ホテル(京都市)】

早朝5時30分に都城運動公園より生徒193名、職員13名で出発しました。今回の修学旅行は、昨年度から様々なご意見をいただいた結果、コース選択制（大阪万博コース・奈良コース）を導入しさせていただきました。伊丹空港到着後、各コースに分かれて学習を行いました。大阪万博コースは17万人を越える来場者数で、入場できるパビリオンが限られていましたが、大屋根リング等からの風景は絶景でした。また、奈良コースは、薬師寺、奈良公園、平等院と歴史的建造物を見学しました。予想以上の暑さで、体調を崩す生徒がいないか懸念されましたが、無事に京都市の宿泊場所に到着しました。

○9月11日（木）2日目

【ホテル（京都市）～京都市内班別自主研修～ホテル（京都市）】

文化遺産の多い京都市内での自主研修です。生徒は事前学習を十分に行い、九州では感じることのできない趣のある風景に様々なことを感じたのではないでしょうか。全ての班が遅れることなく、無事にホテルに到着しました。本当に立派でした！

○9月12日（金）3日目

【ホテル（京都市）～U.S.J～伊丹空港～宮崎・鹿児島空港～都城】

最終日です。疲れていたとは思いますが、生徒の皆さんにはかなりのハイテンションでした。沢山のお土産も購入し、無事に都城に帰ってきました。

○校長の所感

私の長い教職人生の中で、9月実施の修学旅行及びコース選択制は初めての経験であり、正直、不安な修学旅行でした。また、1日目が猛暑であったため、体調不良の生徒が生じ、途中でリタイアし、離団するケースも覚悟しました。しかし、生徒自身の自己管理、引率職員の適切な生徒指導の甲斐もあり、大きく体調を崩すこともなく、無事に帰郷することができ、本当に嬉しく感じております。また、2年生の素直で、心のある言動等を目の当たりにし、数ヶ月後は本校の顔となる2年生に頼もししさを感じました。最後に、保護者の皆様にはご心配等をおかけしましたが、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

## この夏に感じたこと

私にとって今年の夏休みは、多忙を極めた年でした。完全休養日は1日ぐらいでした。それは、全国中学校体育大会剣道大会が都城市で開催されたからです。私は大会副会長として運営に携わり、我々実行委員会はこの大会のために約2年間の準備を行ってきました。しかし、無事に大会を終えることはできましたが、深く考えさせられることがありました。

各種大会の成功は「する（競技者） みる（観戦者） ささえる（運営者）」の三位一体と言われますが、そのことを身をもって痛感しました。競技者は厳しい予選を勝ち上がり、必死に競技を行います。運営者は心身を削り、選手のために一生懸命に運営をいたします。問題は観戦者のマナーでした。そしてマナー違反を行っているのは残念ながら、子ども達の見本となるべき大人の方々でした・・・。本県の屋内競技施設は脆弱です。延べ1万人を超える来場者の大会に対応（座席数）できる施設は県内にはありません。しかしながら、武道という剣道を修練している者の集まりであれば、礼儀と礼節を重んじることは当然のことです。本当に残念でたまりません。

最後にこの教訓から、本校の関係者の皆様も、様々な大会やイベント等に、応援や観戦を行う場面が多々あると思います。既に地区秋季大会も始まっていますが、参加される際は、どうぞ大会の原則はあくまでも選手ファーストだということを念頭に置き、運営側の視点に立ち、マナーを遵守した立ち振る舞いを行っていただきたいと思います。それが選手ファーストにつながり、ひいては大会やイベント等の成功につながると考えます。